

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	45	学校名	県立清流館高等学校	校長名	山梨 祥子
------	----	-----	-----------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	思考力・判断力・表現力を伸ばし、主体的・対話的な学びを深めるとともに、課題解決に向けて探究的に取り組む態度を育む。	【教員の授業研修】 <ul style="list-style-type: none"> 校外研修やオンラインセミナーに参加する教員80%以上 教員自身が学び続ける姿勢を持つことを自覚する 年2回の授業見学の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 教員アンケートより「本校の教育課程に対応した教員研修が行われている」と回答した教員が82%。 「学び続ける姿勢を持つことが必要だと自覚している」と回答した教員が100%。 年2回の授業見学を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修で東京都市大の野島一郎先生を招き、志望理由書作成の指導法、推薦書の作成法および小論文の指導法について研修を7月に実施し、3年生の進路指導に役立てた。 授業見学後に実施したアンケートで「授業見学を通して授業改善につなげることができたか」との質問に、「できた」との回答が100%であったので次年度も同様に授業見学を継続したい。
		【知識の定着】 <ul style="list-style-type: none"> 「授業の内容がわかる」と答える生徒80%以上 「学ぶ面白さを感じた」と答える生徒80%以上 学びの基礎診断や模試の結果が学年、進路課で活用され、生徒が自己調整力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> すべての教科において「授業の内容がわかる」と答えた生徒が90%以上であった。 「学ぶ面白さを感じた」と答える生徒が85.4%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「授業の内容がわかる」「学ぶ面白さを感じた」両項目共に目標数値を達成できた。 学びの基礎診断や模試の結果の分析を学年で共有し、面談の声掛けに役立てた。 生徒の自己調整力を更に高めるために面談内容を書き込めるようにポートフォリオを改善したい。
		【授業改善】 <ul style="list-style-type: none"> 「授業を通して物事を考える方法や材料を身につけることができた」と答える生徒80%以上 授業等でICT機器を効果的に活用する教員85%以上 教員が生徒の興味・関心を高める授業を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教科において「授業を通して物事を考える方法や材料を身につけることができた」と答えた生徒が90%以上であった。 授業等でICT機器を効果的に活用すると答えた教員が89.7%であった。 本校生徒の課題である「失敗することが怖い」「努力が報われたと実感したい」「意見 	B	<ul style="list-style-type: none"> どちらも数値目標を上回った。教員が生徒の実態に合わせ、ICT機器の活用などを通して、生徒の興味・関心をひくように工夫でき、生徒の満足度も高い。 「理解できる授業」だけではなく「自分で知りたくなる、考えたくなる授業」への転換がこれからの課題である。 授業のゴールを最初に示したり、単元の見通しを共有する取り組みや、難しすぎない課題設定を行って、小

	を言いにくい」等の改善を図るため、授業見学の取り組みの中で課題解決の方策に全教員で取り組んだ。		さな成功体験を用意したりする取り組みなど、生徒の興味関心を高める授業の実践が行われた。次年度に向けても、生徒の興味・関心を高める授業に向けての取り組みを実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ・教科内で共通理解のもと、観点別評価の実践と改善が行われている 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に全体研修を行い、共通理解を図った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の入替えがあっても本校における観点別評価の共通理解がなされるよう、教科で引き継ぎが必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・「授業以外の学習を週5日以上行う」と答える生徒 60%以上 ・生徒が進路実現や自己目標達成に向けて努力している ・「学習方法を身に付けている」と答える生徒 75%以上 ・「家庭学習等に ICT 機器を活用している」と答える生徒 75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業以外の学習を週5日以上行う」と答えた生徒が 37.6%。 ・福祉科では、毎日ノート1P以上の専門科目の学習を通して家庭学習の習慣化と知識の定着を図っており、80%以上が提出している。 ・「学習方法を身に付けている」と答えた生徒が 71.5%。 ・「家庭学習等に ICT 機器を活用している」と回答した生徒が 66.5%であった。昨年度の 55.5%より 10 ポイント増加した。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・何れの項目も目標を下回った。特に「授業以外の学習」の数値が非常に低く、「授業への満足」と比例していない。生徒の家庭学習に結びつける適切な課題の提示と意欲を高める授業改善が必要である。 ・課されたこと、指示されたことだけでなく主体的な学びへの意欲を引き出す工夫が必要である。 ・Google クラスルームを中心に、ICT の活用が生徒に広く浸透している。さらなる学習の成果や効率について検証する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・1か月間の無読者 30%以下 ・年間を通して読書時間を伸ばすことができる ・生徒「読書 MAP」への読後感の記入 年5冊以上 ・読書が人の気持ちを考える、社会のを知る、知識を得るなどに有用であると答える生徒 75%以上 ・新書をはじめ、自ら興味・関心のある分野の本を読んだ生徒 75%以上 ・図書室講座等各種ガイダンスの開催(年6回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1冊以上本を読んでいるについて「ほとんどあてはまらない」と回答した生徒が 29.3%であった。 ・読書が有用であるという問いに「かなりあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒が 85.0%であった。 ・新書をはじめ、自ら興味・関心のある分野の本を読んだという問いに「かなりあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒が 71.2%であった。 ・図書室講座年6回、ガイダンス年2回実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の朝読書や、「読書 MAP」の利用等を通して、心を豊かにし、より良い人間関係を築こうとする生徒や、視野を広げ、知識を増やし、社会に目を向けようとする生徒、自身の進路の糧としようとする生徒の姿が見られる。 ・早い生徒は夏休み後には読書5冊を達成しているが、多くの生徒は様々な分野にわたる読書量を増やす工夫が必要である。

イ	<p>自立的な生活習慣を確立し、互いを認め合い尊重する豊かな心を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員も率先して挨拶し、「進んで挨拶ができる」と感じる生徒と教員の回答のギャップが10%以内 ・「正しい身だしなみ」と感じる生徒と教員の回答のギャップが30%以内 ・SNSの適切な使用方法が身につけている生徒90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで挨拶ができると感じる生徒は88.8%、教員は59%で差が29.8%だった。 ・「身だしなみ」については、生徒が97.2%、教員が43%で、差が54.2%であった。 ・「SNS」については、見についていると答えた生徒が98.1%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会主体の挨拶運動や身だしなみ指導により改善の兆しは見られるものの、依然として生徒と教員の認識に大きな乖離がある。生徒が「できている」と感じる基準と、社会・学校が求める基準の差を埋めるための丁寧な対話が必要である。 ・SNSは目標は達成したが、関連するトラブルは継続的に発生しているため、モラルや想像力を養う啓発活動を引き続き強化していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による企画・運営が進んでいる。 ・委員会・係活動が充実している生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会・クラス活動がしっかりできたと回答した生徒96.4%。 ・充実した文化祭だったと回答した生徒が95.7%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による企画・運営が推進されており、特に文化祭において非常に高い満足度(95.7%)が得られた。生徒の主体的・積極的な活動が行われており、非常に良好な結果と言える。
		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動が充実している生徒80%以上 ・部活動改善ロードマップに基づく今後の設置部活動の決定や規約などの見直しがされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動が充実していると回答した生徒が90.2%であった。 ・ロードマップに基づき今後の設置部活動の決定と規約の見直しができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ロードマップに基づき、設置部活動の再編(21部から15部へ)を計画通りに進めることができた。部活動に対する生徒の充実感も90.2%と高く、適正化と満足度の両立が図られている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・自転車安全指導カード交付件数年間100枚以下 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間交付数98枚(2025年10月末)であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・10月末時点で交付数は目標範囲内に留まっている。今後も交通ルール遵守の徹底と事故防止に向けた街頭指導・啓発を継続する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムや食事など健康を維持することを意識している生徒80%以上 ・治療勧告に対する受診率75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を食べている生徒は92.8%であった。 ・治療勧告書に対する受診率は視力が42.7%、歯科は43.7%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食摂取率が9割を超えており、多くの生徒が生活リズムを意識した生活をしていると考察する。 ・受診率が上がるよう、全体への啓発に加え、個別指導が必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・教室等が公共の場として、安全で清潔な環境を整えることができる ・ごみの総量減少。分別されたごみ出しができています 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートより「教室が公共の場として整っている」と回答した生徒が91.9%であった。 ・ゴミ分別は美化委員のゴミ捨て指導もあり大きなトラブルはなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒目線ではよい評価であるが、私物の整理など今後も指導が必要である。

		<ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞教室において生徒満足度 80%以上 ・事後アンケートにより効果と課題が共有されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞教室の内容について、「とてもよい」「まあよい」と回答した生徒が 88.3%。 ・事後アンケートにより、効果と課題の共有を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は本校(体育館)を会場に実施した。移動の負担がなく、費用を削減できるため、今後も本校を会場に実施したい。
ウ		<ul style="list-style-type: none"> ・選管による出前授業や模擬投票等の実施を通して、生徒が具体的に国や地域の課題解決への関わる気持ちを高めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・焼津市選挙管理委員会の出前授業で模擬投票を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の投票資材を使用したり、模擬政党の政策を比較したりすることで、実際の投票への意識を高めた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け進路ガイダンス 3回以上実施 ・生徒・保護者・教員向け進路講座、年 3回以上実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は上級学校ガイダンス、3年生は医療系ガイダンスを実施した。 ・2年生は年度末に分野別ガイダンスを実施する予定である。 ・生徒・保護者向けの講座は2回、教員向けの講座は2回実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で進路ガイダンスを実施したことで生徒の進路意識は向上した。自分の将来を真剣に考え、目標や計画を立てている生徒は 84.1%と各種ガイダンスや講座が一定の効果を上げることがわかった。次年度はキャリア教育を融合する等、生徒の実態に合うガイダンスにしていく予定である。 ・進路講座アンケートでは生徒や保護者の貴重な意見が聞けるので今後も進路講座は内容を工夫して継続したい。
	<p>社会の一員として貢献する自覚と高い志を持って、自らの進路を切り拓く力を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「平和について意識が高まった」「自然や生活文化の違いへの理解が深まった」「他者を思いやる言動ができた」と回答する生徒 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行アンケートで「平和について意識が高まった」「とてもそう思う」と回答した生徒 78.3%、「そう思う」と回答した生徒が 20.2%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習したことを現地で体験的に学ぶことを重視した。ガマや資料館、平和ガイドの説明を通して、体験的に戦争の悲惨さや平和の大切さを肌で感じることで、生徒は真剣に考えることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・3年生進路目標の実現の満足度 90%以上 ・必要な進路情報を入手するために自ら行動している生徒 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な進路情報を手に入れることができている生徒が 82.4%であった。 ・学校からの情報入手について保護者の約 80%が肯定的であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型、学校推薦型選抜受験者の合格率は、全職員の協力があり、例年以上の好結果となった。国公立大については低学年からの指導が大切となる。 ・1年生段階で模試への取り組みに個人差が見られるため、解き直し等の指導も必要。また、特進クラスと普通クラスの間にある模試への取り組む姿勢のギャップも検討課題である。 ・オープンキャンパスへの参加の啓発により進学意欲が高まった。

エ	教育諸活動に係る生徒への支援体制の充実を図り、「信頼される学校」づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づく、教育活動の円滑な運用を行う ・行事等の目的と学校経営計画とのつながりを明確にして共有する 	<p>スクール・ミッション、スクールポリシーに基づく、教育活動の円滑な運用を心掛けている（地域に信頼される、「愛される 応援される 清流館」のスローガンを意識している）と回答した教員が 92.3%。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より職員会議資料に、提案者が提案事項に関連する学校経営計画書の取組目標を明記したことで、職員の中で行事等の目的と学校経営計画とのつながりが明確にな。
		<ul style="list-style-type: none"> ・教員の多様な経験を生かす職員研修の実施とチームプロジェクトを充実し、生徒や保護者の困り感等の緩和や若手教員のスキルアップに繋げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験年数の異なる教員でチームを組み、学校紹介動画の作成や学校説明会用ポスターの作成を行った。専門教科や経験等が異なるメンバーで多様な視点、知識を活かすことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・若手教員は、ミドルリーダーの考えを学んだり、フィードバックを受けられたりする等、課題解決のスキルを学ぶ機会となった。このような経験を通し、信頼関係や当事者意識を高め、強い組織づくりにつなげたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・定例の会議に加え、必要に応じて随時ケース会議を行い迅速な対応態勢を整える。 ・SC や外部専門機関とのスムーズな接続がとられている ・相談室情報連絡会議年 7 回、特別支援委員会年 5 回 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室情報連絡会議を年 7 回、特別支援教育委員会を年 5 回、さらに、迅速な対応をするために個別ケース会議を開いた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・会議には必要に応じて SC、SSW も参加、生徒・保護者面談にも同席していただき的確な助言を受け効果的な支援をすることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・会計研修実施 年 1 回以上 ・適正かつ効果的な予算配分及び計画的な予算執行が行われている 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に「学校徴収金の適切な会計処理について」をテーマに実施した。 ・各分掌からの要望に対し、可能な限り対応した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して全職員の共通理解を図ることができた。 ・物価の高騰や施設の経年劣化による不良など難しい局面も多いが、適正に予算執行することができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの活用促進 ・校内防災訓練で防災意識が高まった生徒 80% 以上 ・総合防災訓練又は地域防災訓練の参加生徒延べ 300 人以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議で危機管理マニュアルを読み合わせ、災害時の体制を共有した。紙媒体に加え QR コードでの配信、防災カード(勤務時間外の参集基準)の配布を行い、緊急時対応体制を整備した。 ・防災訓練と防災講話を 2 回実施。訓練後のアンケートでは、99.5%が「防災意識が高まった」と回答。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・12 月実施の学校生活アンケートにおける「防災意識が高まった」との回答率は 91.7%であり、防災訓練・講話後のアンケート結果と比較してやや低下が見られた。日常的な啓発の必要性がある。 ・地域防災訓練への参加を校内でさらに促進したい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練の参加者は142人、不参加者441人。不参加理由は未実施42人、対象外30人、教育活動との重複64人、個別事情108人、意思なし197人であった。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 広報紙「清流館だより(5月)」を発行し、魅力を周知している ・福祉科広報の充実 ・学校公開(年2回)参加者の満足度90%以上 ・学校ホームページの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「清流館だより」と学校案内パンフレットを発行し、学校の取り組みや魅力を広く伝えることができた。また、PTA インスタグラムを通じて、定期的にPTA 活動や学校の様子を発信することができた。 ・福祉科ニュースの発行(年5回) ・1階階段下に福祉科広報の掲示板を設置。 ・新たに福祉科パンフレットを作成した。 ・学校公開参加者は、夏1003人(昨夏1028人)、満足度97.0%、秋562人(昨秋521人)、満足度98.2%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉科ニュースを福祉科掲示板へ掲示し、生徒・教職員や来校者の本校の福祉科教育への理解を深めることができた。 ・福祉科パンフレットにより、中学生や保護者に学科の特色を発信することができた。 ・保護者アンケートより「本校のホームページやInstagramを観ている」75.8%、「ホームページやInstagramは学校の様子を知ることに関わっている」78.9%であった。 ・Instagramフォロワー数は令和6年度の約3800から約4200に増加した。 	
オ	<p>「総合的な探究の時間」を柱として、外部との連携による学習機会の充実を図り、地域社会のリーダーとして活躍する人材を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提案や行動に繋がる探究を行う。 ・探究を通して志望理由書等の進路資料作成スキルを向上させている ・年1回以上、中間発表会、探究活動発表会を実施し、年3回以上、校外での発表会に参加する ・県教育委員会「行きたい学校づくり探究推進事業」の志埜地区拠点校として、コンソーシアムの構築及び運営に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒が探究活動を通じて地域の人と関わり、自分の興味関心を広げ、他者に自分の考えを理解してもらおうとする態度を伸ばできるように取り組んだ。 ・「教科の授業やSPで自分の考えを表現している」について、35.2%の生徒が肯定的に回答した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や商店と連携することで、地域貢献への意識を深めることができた。 ・各学年とも、中間発表、全体発表が計画的に実施されており、表現力の向上や計画の実践に結びつけることができた。 ・活動自体は行われていても、全ての生徒が「表現できている」という実感を持つまでには至っていない可能性がある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・焼津の魅力発信プロジェクトとキャリアデザイン講演会の実施 ・大学との連携による企 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン講演会実施(5/1)。 ・静岡産業大学の岩本教授のプレゼン講座 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・文理選択を控えた1年生が社会で活躍するために進路選択が重要な機会となることを理解した。 	

様式第3号

		画を実施し、生徒の学びの幅を広げる	実施(9/8、9/17 参加者 23名)。		・「伝わる」プレゼンテーション技術を習得し、探究学習の成果を入試に活用するノウハウを習得できた。参加生徒の多くは総合型選抜試験を受験し合格した。
カ	周囲との協調性を重視し、他者の人格や人権を尊重する豊かな人間性を備え、多様な他者と協働して活躍する人材を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・悩み事を相談する人が一人でもいると回答する生徒 80%以上 ・相談室と連携して校内でのいじめを撲滅する ・学校いじめ対策組織やガイドラインの周知および点検と見直しが継続的に行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・悩み事を相談できる人がいる生徒 90.8%、信頼できる先生がいる生徒が 86.8%。 ・配慮が必要な生徒へ支援体制が充実と回答した教員が 94.9%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・相談体制は、目標を大きく上回る良好な結果となった。相談室との連携を強化し、支援体制の充実が図られている。 ・いじめ対策組織についても、アンケート実施方法の見直し等を行い、実効性の高い運用を継続している。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活が充実していると回答する生徒 80%以上 ・居心地が良いクラスであると回答する生徒 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒であることを誇りに思うと回答した生徒が 91.2% ・居心地が良いクラスだと回答した生徒が 89.5%であった。 	A	結果より、多くの生徒にとって安心できる居場所が確保されており、良好な学校環境が実現できていると言える。
キ	福祉・介護に関する知識及び技能を高め、持続可能な共生社会の担い手としての人材を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の福祉への関心を高め、自ら課題を発見し、改善につながる提案ができる力を育む ・地域の高齢者施設・障害者施設と連携しながら、介護実習を実施する ・介護実習及び介護技術コンテスト等を通して、技量や意識を高める ・福祉科説明会、福祉科広報物の作成を通して、中学生や地域に福祉科教育への理解を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間で専門分野を担当し、組織的体制の下、指導することができた。 ・介護技術コンテスト全国大会出場を果たした。練習を重ねることにより高いレベルの介護技術を身につけることができた。 ・学校公開以外の土曜日や放課後に中3向けの福祉科説明会を実施した。 ・新たに福祉科のパンフレットの作成した 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に向け、学習意欲が上がらない生徒に対する指導方法を引き続き模索する必要がある。 ・介護技術コンテストの全国大会出場には出場選手の技術や意識の向上だけでなく、大会運営に関わった1、2年生の来年以降への活動への意欲に良い影響を与えた。 ・パンフレットの作成や福祉科説明会を通して中学生や保護者の福祉科教育の理解を深めることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア、社会貢献活動に参加する生徒 60%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加生徒 33.4% ・焼津市と協力し、福祉科の3年生による認知症カフェの実施。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を大きく下回った。これは本年度の福祉委員会廃止に伴う活動縮小が影響している。現在、生徒会本部を中心とした新たな運営体制へ移行中であり、次年度に向けた活動機会の再構築が急務である。 ・認知症カフェの実施により、地域の方々と関わり、学習した知識や技術を社会に還元することができた。

ク	<p>教職員が信頼し合い、長所を認めて学び合い、互いに職業人としての技量を一層高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌における業務について、優先順位や軽重を再検討し、スリム化に取り組む ・デジタル採点システムを全校で活用し、業務の効率化、情報資産の管理・保護に取り組む。 ・効率的に業務を進め、時間外労働時間を昨年度より削減する ・業務の質と量、かける時間について自ら妥当性を考え、心身の健康を確保し、ウェルビーイングな学校の雰囲気醸成する ・会議時間短縮のための工夫の促進 ・夏季休暇取得率 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌において、業務の見直しやスリム化への取り組みを行っていると回答した教員が71.8%であった。 ・ほぼ全員の教職員がデジタル採点システムを扱うことができている。 ・効率的に業務を進め、時間外労働時間の削減に努めていると回答した教員が79.5%であった。 ・業務の質と量や業務にかかる時間について自ら妥当性を考えたり心身の健康の確保に努めたりしていると回答した教員が87.2%であった。 ・夏季休暇取得率は100%であった。 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路課において、毎年増加し続ける求人票や上級学校の指定校に係る書類が膨大な量で課員の負担が大きいが、来年度よりAIによる文書処理の導入を決定した。 ・学校全体で業務改善に向けた意識の醸成が高まった。 ・管理職は、引き続き教員が本来担うべき業務に集中できる環境を整えていく。
---	---	---	--	--